

(15) 2種類のアーユルヴェーダ薬草混合物 [ アムリット4 およびアムリット5 ] の抗酸化特性

文献名

Biochemical Archives, Vol.10, pp.25-31, 1994.

著者

Stephen C. Bondy, Tina M. Hernandez, and Cara Mattia.

実施場所

Department of Community and Environmental Medicine, University of California (Irvine), Irvine, CA 92717  
(カリフォルニア大学アーヴィン校、地域・環境医学部、カリフォルニア州アーヴィン)

要約

本研究では、試験管内のラットの脳におけるアムリット4およびアムリット5の抗酸化効果を調査した。試験管内では、アムリット4およびアムリット5のエタノール抽出物および水性抽出物は、ミトコンドリアと神経終末(シナプトソーム)を多量に含んでいるラットの大脳皮質の単離分画内における活性酸素種の産生を抑制した。生体内では、アムリット5で前処置することにより、ラットをトルエンに曝露した後の大脳ミトコンドリア分画内における活性酸素種の過剰な産生が防がれた。